

平成26年10月20日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
(コード番号：4572)
問合せ先 取締役経営管理本部長 相川 法男
(TEL： 078-302-7075)

CDC7/ASKキナーゼ阻害薬に係る特許庁（日本）からの特許査定通知受領のお知らせ

当社が、SBIバイオテック株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：中川 隆）と共同で創出し、同社の特許権等に係る持分を全て取得して、当社単独で研究開発をおこなっているCDC7/ASKキナーゼ阻害薬の特許出願（発明の名称；新規フラノン誘導体、出願番号；2013-507805、以下「本件特許」という）に関して、日本国特許庁より平成26年10月17日付で特許査定通知を受領しましたのでお知らせいたします。

なお、本件特許査定は、特許庁におけるスーパー早期審査制度を活用したものであり、早期の権利化が可能となりました。さらに、本件特許に係る特許庁からの特許査定通知の受領は、当社が平成26年6月11日付で公表しました米国特許成立に引き続くものであり、日本においてもCDC7/ASKキナーゼ阻害薬に係る特許査定を受けたことにより、本件特許の権利が確保される地域が拡大することとなりました。

引き続き当社は、知的財産戦略上において重要な特許取得に積極的に取り組んでまいります。

以 上

(注1) CDC7/ASKキナーゼは、細胞が分裂するときに重要なDNA複製などの染色体サイクルにおいて、多くの機能制御に深く関与していると考えられています。ガン細胞は正常細胞に比べ、細胞分裂が盛んであることを利用して、これまでもDNAの複製を阻害する薬剤が抗ガン剤として用いられてきておりますが、正常細胞も影響を受けるために強い副作用がありました。しかし、CDC7/ASKキナーゼの阻害は、これら従来の薬剤と異なり、ガン細胞のみを細胞死に導くことが報告されています。また、膵臓がんや悪性度の高い乳がん（例えばトリプルネガティブ乳癌*）に対してCDC7/ASKキナーゼが有望な標的分子であることが報告されており、CDC7/ASKキナーゼ阻害薬は、これまで治療困難とされてきたこれらのがんに対する治療に大きな貢献を果たすことが期待されています。

当社は、このような副作用の少ない画期的な抗ガン剤の開発を目的として、CDC7/ASKキナーゼの阻害が抗ガン剤の有望な新規ターゲットとなりうると考え、低分子阻害薬の研究開発を実施しております。本テーマを早期に臨床段階へステージアップできるよう、前臨床試験を推進してまいります。

*トリプルネガティブ乳癌は、エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体、HER2がすべて陰性で、治療が難しく予後が悪いがんとされています。

(注2) スーパー早期審査制度とは、「ユーザの求めるタイミングで早期に権利化が行える審査体制の構築に向け、現行の早期審査よりも更に早期に審査を行う」ことを目的として実施されているものであり、今後も同制度を最大限活用し、当社知的財産の国内における特許化を進めてまいります。詳細は特許庁のHP (<http://www.jpo.go.jp/sesaku/sinsa00.htm>) をご参照ください。